

平成 12 年 9 月 13 日制定
平成 13 年 9 月 17 日改定
平成 14 年 3 月 15 日改定
平成 15 年 3 月 3 日改定
平成 18 年 3 月 1 日改定
平成 18 年 11 月 1 日改定
平成 19 年 4 月 1 日改定
平成 21 年 7 月 1 日改定
平成 21 年 12 月 7 日改定
平成 22 年 4 月 1 日改定
平成 22 年 9 月 1 日改定
平成 23 年 12 月 1 日改定
平成 27 年 4 月 6 日改定
平成 27 年 6 月 1 日改定
平成 27 年 10 月 1 日改定
平成 28 年 6 月 3 日改定
平成 29 年 10 月 23 日改定
平成 30 年 4 月 1 日改定
平成 30 年 9 月 1 日改定
平成 31 年 4 月 1 日改定
令和 2 年 10 月 3 日改定
令和 3 年 4 月 1 日改定

一般財団法人大阪住宅センター評価業務規程

第 1 章 総 則

(趣旨)

第 1 条 この評価業務規程(以下「規程」という。)は、一般財団法人大阪住宅センター(以下「当機関」という。)が、住宅の品質確保の促進等に関する法律(平成 11 年法律第 81 号。以下「法」という。)第 5 条第 1 項に規定する登録住宅性能評価機関として行う法第 7 条第 1 項に規定する評価の業務(以下単に「評価の業務」という。)の実施について、法第 16 条第 1 項の規定により必要な事項を定める。

(基本方針)

第 2 条 評価の業務は、法、これに基づく命令及び告示並びにこれらに係る通達によるほか、この規程に基づき、公正かつ適確に実施するものとする。

(評価の業務を行う時間及び休日)

第 3 条 評価の業務を行う時間は、次項に定める休日を除き、午前 9 時 15 分から午後 5 時 30 分(分室は午前 9 時から午後 5 時) までとする。ただし、正午から午後 1 時までは除くものとする。

2 評価の業務の休日は、次に掲げる日とする。

- (1) 土曜日、日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に定める祝日
- (3) 12 月 29 日から翌年の 1 月 4 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

3 評価の業務を行う時間及びその休日については、緊急を要する場合その他正当な事由がある場合又は事前に申請者等との間において評価の業務を行う日時の調整が図られている場合は、前 2 項の規定によらないことができる。

(事務所の所在地)

第 4 条 事務所の所在地は、本部は、大阪府中央区南船場四丁目 4 番 3 号とし、分室は、大阪府中央区谷町三丁目 1 番 17 号とする。

(評価の業務を行う区域)

第 5 条 当機関の業務区域は、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県の各全域とする。

(住宅性能評価を行う住宅の種類及び評価の業務を行う範囲)

第 6 条 当機関は、法第 7 条第 2 項各号に掲げる住宅の種別に係る評価の業務について、住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則(平成 12 年建設省令第 20 号。以下「施行規則」という。)第 9 条第 1 号から第 3 号までに定める区分に係る評価の業務を行うものとする。

第 2 章 設計住宅性能評価の実施方法

(設計住宅性能評価の申請)

第 7 条 施行規則第 3 条第 1 項に規定する設計住宅性能評価(以下単に「設計住宅性能評価」という。)を申請しようとする者は、当機関に対し、次の各号に掲げる図書を 2 部提出しなければならないものとする。

- (1) 施行規則第 3 条第 1 項に規定する設計住宅性能評価申請書
- (2) 平成 12 年建設省告示第 1660 号第 1 から第 3 までに定める図書(施行規則第 3 条第 3 項から第 6 項までの規定により明示することを要しないものとされた事項に係る図書を除く。)
- (3) 特別評価方法認定を受けた方法を用いて評価されるべき住宅に係る設計住宅性能評価の申請にあつては、特別評価方法認定書の写し(ただし、当機関が当該認定書の写しを有していないことその他の理由により、提出を求める場合に限る。)及び当該認定特別評価方法を用いて評価されるべき事項を記載した書類(必要な場合に限る。)

2 前項の規定にかかわらず、施行規則第 3 条第 1 項に規定する変更設計住宅性能評価(以下単に「変更設計住宅性能評価」という。)を申請しようとする者は、当機関に対し、前項 (1) に掲げる図書、前項 (2) 及び (3) に掲げる図書のうち変更に係るもの並びに直前の設計住宅性能評価の結果が記載された設計住宅性能評価書又はその

写しを2部提出しなければならないものとする。(ただし、当機関において直前の設計住宅性能評価を行っている場合にあつては、設計住宅性能評価書又はその写しを除く。)

- 3 前2項の規定により提出される図書(以下「設計評価提出図書」という。)の受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織(当機関の使用に係る電子計算機(入出力装置を含む。))と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。)の使用又は磁気ディスク(これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。以下同じ。)の受理によることができる。

(設計住宅性能評価の受理及び契約)

第8条 当機関は、設計住宅性能評価の申請があつたときは、次の事項を審査し、当該設計評価提出図書を受理する。

- (1) 申請に係る住宅が、第6条に定める評価の業務を行う範囲に該当するものであること。
- (2) 設計評価提出図書に形式上の不備がないこと。
- (3) 設計評価提出図書に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
- (4) 設計評価提出図書に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 当機関は、前項の審査により同項各号に該当しないと認める場合においては、その補正を求めるものとする。
- 3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、当機関は、受理できない理由を明らかにするとともに、申請者に当該設計評価提出図書を返還する。
- 4 当機関は、設計住宅性能評価の申請を受理した場合においては、申請者と設計住宅性能評価に係る契約を締結するものとする。
- 5 前項の契約に用いる書面には、少なくとも次に掲げる事項について明記するものとする。
 - (1) 設計住宅性能評価を希望しない性能表示事項がある場合にあつては、その旨及び当該性能表示事項に関すること。
 - (2) 申請者の協力義務に関する事項のうち、申請者は、当機関の求めに応じ、設計住宅性能評価のために必要な情報を当機関に提供しなければならないこと。
 - (3) 評価料金に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 評価料金の額に関すること。
 - (b) 評価料金の支払期日に関すること。
 - (c) 評価料金の支払方法に関すること。
 - (4) 評価の業務の期日に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 設計住宅性能評価書を交付し、又は設計住宅性能評価書を交付できない旨を通知する期日(以下この項において「業務期日」という。)に関すること。
 - (b) 申請者の非協力、第三者の妨害、天災その他当機関に帰することのできない事由により業務期日から遅延する場合には、申請者との協議の上、期日を変更できること。
 - (5) 契約の解除及び損害賠償に関する事項のうち、次に掲げるもの

- (a) 設計住宅性能評価書の交付前に計画が大きく変更された場合においては、設計住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度申請を行わなければならないものとし、この場合においては、元の設計住宅性能評価に係る契約は解除されること。
 - (b) 申請者は、設計住宅性能評価書が交付されるまで、当機関に書面をもって通知することにより当該契約を解除できること。
 - (c) 申請者は、当機関が行うべき評価の業務が業務期日から遅延し、又は遅延することが明らかであることその他の当機関に帰すべき事由により当該契約を解除したときは、既に支払った評価料金の返還を請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
 - (d) 当機関は、申請者の必要な協力が得られないこと、評価料金が支払期日までに支払われないことその他の申請者に帰すべき事由が生じた場合においては、申請者に書面をもって通知することにより当該契約を解除することができること。
 - (e) (d)の規定により契約を解除した場合においては、一定額の評価料金の支払いを請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
- (6) 当機関が負う責任に関する事項のうち、次に掲げるもの
- (a) 当該契約が、設計住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法(昭和25年法律第201号。)その他の法令に適合することについて保証するものではないこと。
 - (b) 当該契約が、設計住宅性能評価の対象となる住宅に瑕疵がないことについて保証するものではないこと。
 - (c) 設計評価提出図書に虚偽があることその他の事由により、適切な設計住宅性能評価を行うことができなかつた場合においては、設計住宅性能評価の結果について責任を負わないこと。

(設計住宅性能評価)

- 第9条** 当機関は、法、これに基づく命令及び告示並びに住宅性能評価に用いる住宅性能評価マニュアル等に従い、設計住宅性能評価を評価員に実施させる。
- 2 評価の業務に従事する職員のうち評価員以外の者は、評価員の指示に従い、申請の受付、計画内容の予備審査等の補助的な業務を行う。
- 3 評価員は、設計住宅性能評価のために必要と認める場合においては、申請者又は設計者に対し、必要な図書の閲覧又は提出を求める。
- 4 評価員は、設計住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に違反していると認めるときは、申請者に対してその旨を告げるとともに、必要に応じて設計住宅性能評価を一時中断する。
- 5 前項の規定により建設住宅性能評価を中断した場合においては、当機関は、その是正が図られるまでの間、設計住宅性能評価を再開しない。

(設計住宅性能評価の申請の取り下げ)

- 第10条** 申請者は、設計住宅性能評価書の交付前に設計住宅性能評価の申請を取り下げる場合においては、その旨を記載した取り下げ届出書を当機関に提出する。
- 2 前項の場合においては、当機関は、設計住宅性能評価を中止し、設計評価提出書類を申請者に返却する。

(設計評価提出図書の変更)

第 1 1 条 申請者は、設計住宅性能評価書の交付前に設計住宅性能評価の対象となる住宅の計画が変更された場合においては、その旨及び変更の内容について当機関に通知するものとする。

2 前項の通知が行われた場合において、当機関が変更の内容が大規模であると認めるときは、申請者は、設計住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度設計住宅性能評価を申請しなければならない。

(設計住宅性能評価書の交付)

第 1 2 条 当機関は、設計住宅性能評価が終了した場合においては、次に掲げる場合を除き、速やかに設計住宅性能評価書を交付する。

(1) 設計評価提出図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき。

(2) 設計評価提出図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。

(3) 設計住宅性能評価の対象となる住宅の計画が建築基準法第 6 条第 1 項の建築基準関係規定（以下単に「建築基準関係規定」という。）に適合しないと認めるとき。

(4) 設計住宅性能評価に必要な申請者の協力が得られなかったことその他当機関に帰することのできない事由により、設計住宅性能評価を行えなかったとき。

(5) 評価料金が支払期日までに支払われていないとき。

2 設計住宅性能評価書の交付番号は、別表に定める方法に従う。

3 当機関は、第 1 項各号に該当するため設計住宅性能評価書を交付しないこととした場合においては、施行規則第 4 条第 2 項及び第 3 項の規定に従い、申請者に対してその旨を書面をもって通知する。

4 設計住宅性能評価書又は前項の図書の交付については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの交付によることができる。

第 3 章 建設住宅性能評価の実施方法

(建設住宅性能評価の申請)

第 1 3 条 施行規則第 5 条第 1 項に規定する建設住宅性能評価（以下単に「建設住宅性能評価」という。）のうち、新築住宅に係るものを申請しようとする者は、当機関に対し、次の各号（当機関において最後の設計住宅性能評価を行っている場合にあつては、(2)を除く。）に掲げる図書を 2 部提出しなければならないものとする。

(1) 施行規則第 5 条第 1 項に規定する建設住宅性能評価申請書（新築住宅）

(2) 設計住宅性能評価に要した図書及び最後に交付された設計住宅性能評価書又はその写し

(3) 施工状況報告書の様式

(4) 建築基準法第 6 条第 1 項の規定による確認を要しない住宅以外の住宅に係る申請にあつては、同項又は同法第 6 条の 2 第 1 項の確認済証の写し

- 2 前項の規定にかかわらず、施行規則第5条第1項に規定する変更建設住宅性能評価を申請しようとする者は、当機関に対し、前項（1）に掲げる図書、前項（2）及び（3）に掲げる図書のうち変更に係るもの並びに直前の建設住宅性能評価の結果が記載された建設住宅性能評価書又はその写しを2部提出しなければならないものとする。（ただし、当機関において直前の建設住宅性能評価を行っている場合にあつては、建設住宅性能評価書又はその写しを除く。）
- 3 建設住宅性能評価のうち、既存住宅に係るものえお申請しようとする者は、当機関に対し、次の各号に掲げる図書を2部提出しなければならないものとする。
 - （1）施行規則第5条第1項に規定する建設住宅性能評価申請書（既存住宅）
 - （2）方位、道路及び目標となる地物を明示した付近見取り図
 - （3）住宅に関する基本的な事項に関する申告書
 - （4）評価方法基準第4の3（1）イ後段の規定を適用する場合にあつては、登録住宅性能評価機関が行った現況検査により認められる劣化等の状況の評価の結果を記載した書類
 - （5）評価方法基準第4の3（1）ロ又はハの規定を適用し、評価対象建築物の図書等で建設住宅性能評価に用いられたものをもって評価を行う場合にあつては、施行規則第15条第1項第1号ロ（1）若しくはハ（2）に掲げる書類（建設住宅性能評価申請書を除き、住宅性能評価に要したものに限る。）又はその写し及び評価の結果を記載した書類
- 4 申請者は、前2項に掲げる図書が整っていない場合であっても、当機関に対し建設住宅性能評価の仮申請をすることができる。
- 5 第1項又は第2項の規定により提出される図書（以下「建設評価提出図書」という。）の受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの受理によることができる。

（建設住宅性能評価の受理及び契約）

- 第14条** 当機関は、建設住宅性能評価の申請があつたときは、次の事項を審査し、当該建設評価提出図書を受理する。
- （1）申請に係る住宅が、第6条に定める評価の業務を行う範囲に該当するものであること。
 - （2）形式上の不備がないこと。
 - （3）記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
 - （4）記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 当機関は、前項の審査により建設評価提出図書が同項各号に該当しないと認める場合においては、その補正を求めるものとする。
 - 3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、当機関は、受理できない理由を明らかにするとともに、申請者に当該建設評価提出図書を返還する。
 - 4 当機関は、建設住宅性能評価の申請を受理した場合においては、申請者と建設住宅性能評価に係る契約を締結するものとする。
 - 5 前項の契約に用いる書面には、少なくとも次に掲げる事項について明記するものとする。

- (1) 建設住宅性能評価を希望しない性能表示事項がある場合にあっては、その旨及び当該性能表示事項に関する事項
- (2) 申請者の協力義務に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 申請者は、当機関の求めに応じ、建設住宅性能評価のために必要な情報を当機関に提供しなければならないこと。
 - (b) 申請者は、当機関の評価員が建設住宅性能評価の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入ることに協力すること。
- (3) 評価料金に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 評価料金の額に関すること。
 - (b) 評価料金の支払期日に関すること。
 - (c) 評価料金の支払方法に関すること。
- (4) 評価の業務の期日に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 建設住宅性能評価書を交付し、又は建設住宅性能評価書を交付できない旨を通知する期日（以下この項において「業務期日」という。）に関すること。
 - (b) 申請者の非協力、第三者の妨害、天災その他当機関に帰することのできない事由により業務期日から遅延する場合には、申請者との協議の上、期日を変更できること。
 - (c) 申請に係る住宅が、建築基準法第7条第1項の規定による検査を要しない住宅又は同法第7条の6第1項第1号若しくは第2号の規定による認定を受けた住宅又は既存住宅以外の住宅である場合にあっては、同法第7条第5項又は第7条の2第5項に規定する検査済証を当機関に提出しないときは、業務期日を延期することができること。
- (5) 契約の解除及び損害賠償に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 建設住宅性能評価書の交付前に建設工事が大きく変更された場合においては、建設住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度申請を行わなければならないものとし、この場合においては、元の建設住宅性能評価に係る契約は解除されること。
 - (b) 申請者は、建設住宅性能評価書が交付されるまで、当機関に書面をもって通知することにより当該契約を解除できること。
 - (c) 申請者は、当機関が行うべき評価の業務が業務期日から遅延し、又は遅延することが明らかであることその他の当機関に帰すべき事由により当該契約を解除したときは、既に支払った評価料金の返還を請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
 - (d) 当機関は、申請者の必要な協力が得られないこと、評価料金が支払期日までに支払われないことその他の申請者に帰すべき事由が生じた場合においては、申請者に書面をもって通知することにより当該契約を解除することができること。
 - (e) (d)の規定により契約を解除した場合においては、一定額の評価料金の支払いを請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
- (6) 当機関が負う責任に関する事項のうち、次に掲げるもの
 - (a) 当該契約が、建設住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に適合するか否かについて保証するものではないこと。
 - (b) 当該契約が、建設住宅性能評価の対象となる住宅における瑕疵の有無について

保証するものではないこと。

- (c) 建設評価提出図書に虚偽があることその他の事由により、適切な建設住宅性能評価を行うことができなかつた場合においては、建設住宅性能評価の結果について責任を負わないこと。

(建設住宅性能評価)

- 第15条** 当機関は、法、これに基づく命令及び告示並びに住宅性能評価に用いる住宅性能評価マニュアル等に従い、建設住宅性能評価を評価員に実施させる。
- 2 評価の業務に従事する職員のうち評価員以外の者は、評価員の指示に従い、申請の受付、検査記録の作成等の補助的な業務を行う。
 - 3 評価員は、建設住宅性能評価のために必要と認める場合においては、申請者、設計者、工事施工者、工事監理者、所有者又は管理者に対し、必要な図書の閲覧又は提出を求める。
 - 4 評価員は、新築住宅に係る建設住宅性能評価の対象となる住宅が建築基準法その他の法令に違反していると認めるときは、申請者に対してその旨を告げるとともに、必要に応じて当該建設住宅性能評価を一時中断する。
 - 5 評価員は、既存住宅に係る建設住宅性能評価のための検査の後に、申請者から補修等（容易に行うことができるものに限る。）を行つたうえでの再検査を受けたい旨の申し出があつた場合（申請者と所有者が異なる場合は、所有者の同意を得ている場合に限る。）は、建設住宅性能評価を一時中断する。
 - 6 前4項又は前項の規定により建設住宅性能評価を中断した場合においては、当機関は、その是正が図られるか、又は補修等が完了されるまでの間、建設住宅性能評価を再開しない。

(検査)

- 第16条** 申請者は、当機関に対し、検査対象工程に係る工事が完了する日又は完了した日を別記様式1により通知しなければならないものとする。
- 2 当機関は、前項の規定による通知を受理したときは、同項に規定する日又はその通知を受理した日のいずれか遅い日から7日以内に、評価員に当該検査時期における検査を行う。
 - 3 申請者は、検査が行われるまでに、当該検査対象工程に係る工事の実施の状況を記載した施工状況報告書を当機関に提出しなければならないものとする。
 - 4 申請者は、検査が行われる場合には、材料等の納品書、工事写真、施工図、品質管理記録その他の図書を当該工事現場に備えておかななければならないものとする。
 - 5 当機関は、検査を行つたときは、遅滞なく、施行規則別記様式2(第10号様式)の検査報告書により建設住宅性能評価の申請者にその旨を報告する。

(建設住宅性能評価の申請の取り下げ)

- 第17条** 申請者は、建設住宅性能評価書の交付前に建設住宅性能評価の申請を取り下げる場合においては、その旨を記載した取下げ届出書を当機関に提出するものとする。
- 2 前項の場合においては、当機関は、建設住宅性能評価を中止し、建設評価提出書類を申請者に返却する。

(建設工事の変更)

第18条 申請者は、建設住宅性能評価書の交付前に建設住宅性能評価の対象となる住宅の建設工事に変更された場合においては、その旨及び変更の内容について当機関に通知するものとする。

2 前項の通知が行われた場合において、当機関が変更の内容が大規模であると認めるときは、申請者は、建設住宅性能評価の申請を取り下げ、別件として再度建設住宅性能評価を申請しなければならない。

(建設住宅性能評価書の交付)

第19条 当機関は、新築住宅に係る建設住宅性能評価が終了した場合においては、新築住宅に係る建設住宅性能評価にあつては次の各号に掲げる場合、既存住宅に係る建設住宅性能評価にあつては次の(1)、(2)、(5)及び(6)に掲げる場合を除き、速やかに建設住宅性能評価書を交付する。

(1) 建設評価提出図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき。

(2) 建設評価提出図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。

(3) 建設住宅性能評価の対象となる住宅の計画が建築基準関係規定に適合しないと認めるとき。

(4) 申請に係る住宅について建築基準法第7条第5項又は第7条の2第5項の検査済証が交付されていないとき。ただし、同法第7条第1項の規定による検査を要しない住宅又は同法第7条の6第1項第1号若しくは第2号の規定による認定を受けた住宅にあつては、この限りではない。

(5) 建設住宅性能評価に必要な申請者の協力が得られなかったこと、検査時期に必要な検査を行えなかったことその他当機関に帰することのできない事由により、建設住宅性能評価を行えなかったとき。

(6) 評価料金が支払期日までに支払われていないとき。

2 第12条第2項の規定は、建設住宅性能評価書の交付番号について準用する。

3 当機関は、第1項各号に該当するため建設住宅性能評価書を交付しないこととした場合においては、施行規則第7条第2項及び第3項の規定に従い、申請者に対してその旨を通知する。

第4章 評価員等

(評価員の選任)

第20条 理事長は、評価の業務を実施させるため、法第13条に定める要件を満たす者のうちから、評価員を選任するものとする。

2 評価員は、職員から選任するほか、職員以外の者に委嘱して選任することができるものとする。

3 既存住宅に係る住宅性能評価の業務に従事する評価員については、登録「講習会機関（登録制移行前の指定講習機関を含む）」において、既存住宅に係る住宅性能評価に関する講習の過程を修了した者のうちから選任するものとする。

- 4 評価員は、法別表第各号の上段に掲げる住宅性能評価を行う住宅の区分に応じ、それぞれ当該各号の中欄に掲げる者に該当する者がそれぞれ当該各号の下欄に定める数以上となるよう毎年度見直しを行うものとする。

(評価員の解任)

第21条 理事長は、評価員が次のいずれかに該当する場合には、その評価員を解任するものとする。

- (1) 業務違反その他評価員としてふさわしくない行為があったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認めるとき。

(評価員の配置)

第22条 評価の業務を実施するため、評価員を当機関に2人以上配置する。

- 2 前項の評価員は、公正かつ適確に住宅性能評価を行わなければならない。
- 3 当機関は、住宅性能評価の申請件数が一時的に増加すること等の事情により、評価の業務を適切に実施することが困難となった場合にあっては、速やかに、新たな評価員を選任する等の適切な措置を講ずる。

(評価員の教育)

第23条 評価員の資質を向上させるため、評価員に対し、年1回以上、評価の業務に関する研修を受講させるものとする。

- 2 法、これに基づく命令及び告示の改正等に際しては、評価員に対し、登録講習機関等が行う講習を受講させるものとする。

(評価の業務の実施及び管理の体制)

第24条 評価の業務に従事する職員を、第22条第1項の規定により配置された評価員を含め、6人以上（うち、分室は2人以上）配置する。

- 2 当機関は、住宅評価部長又は技術参与を法第9条第1項第3号に規定する専任の管理者に任命する。
- 3 専任の管理者は、評価の業務を統括し、評価の業務の適正な実施のため、必要かつ十分な措置を講ずるものとし、全ての評価書の交付について責任を有するものとする。

(評価員等の身分証の携帯)

第25条 評価の業務に従事する職員（評価員を含む）が、住宅性能評価の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入る場合においては、その身分を示す証明書を携帯し、必要に応じて関係者に提示しなければならない。

- 2 前項の身分証の様式は、別記様式3による。

(秘密保持義務)

第26条 当機関の役員及びその職員（評価員を含む。）並びにこれらの者であった者は、評価の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

第5章 評価料金等

(評価料金の収納)

第27条 申請者は、別表第1から別表第4並びに別表第10及び別表第11に定める評価料金を、銀行振込により納入する。ただし、やむを得ない事由がある場合は、別の収納方法によることができる。

2 前項の納入に要する費用は申請者の負担とする。

(評価料金を減額するための要件)

第28条 評価料金は、次に掲げる場合に減額することができるものとする。

- (1) 住宅型式性能認定を受けた型式に適合する住宅又は住宅型式性能認定を受けた型式に適合する住宅の部分を含む住宅に係る住宅性能評価の申請を行うとき。ただし、その申請において住宅型式性能認定書の写し（当機関が当該認定書の写しを有しており、評価の業務の公正かつ的確な実施に支障がないと認めた場合は不要。）が添えられている場合に限る。（別表第5）
- (2) 住宅である認証型式住宅部分等又は住宅の部分である認証型式住宅部分等を含む住宅に係る住宅性能評価の申請を行うとき。ただし、その申請において型式住宅部分等製造者等認証書の写し（当機関が当該認定書の写しを有しており、評価の業務の公正かつ的確な実施に支障がないと認めた場合には不要。）が添えられている場合に限る。（別表第6）
- (3) 建設住宅性能評価の申請を行う物件のうち、建築基準法第7条の2第1項又は同法第7条の4第1項の検査の申請を一般財団法人大阪建築防災センター（以下「防災センター」という。）に行う予定のとき。ただし、評価料金を納入後、防災センターに同法の検査を申請しなくなった場合には、その減額額を直ちに当機関に納入すること。（別表第2（に））
- (4) 一定期間内に別に定める一定戸数以上の戸建住宅（別表第7、7の2）及び共同住宅（別表7の3）又は別に定める一定戸数以上の共同住宅（別表7の4、7の5）の申請を行うとき。なお、計画内容や評価内容等に鑑み、当機関が評価業務を効率的に実施できると判断するときは減額を特別に加算することができる。
- (5) 共同住宅の申請にあつて同一プランが多い場合（別表7の6）
- (6) あらかじめ当機関が定める期間内に住宅性能評価の申請を行うとき。
- (7) 新規申請者が当機関に住宅性能評価の申請を行うとき。
- (8) あらかじめ当機関と申請者との間で協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクを添付図書として申請を行うとき。（別表第8）

(評価料金の返還)

第29条 収納した評価料金は、返還しない。ただし、当機関の責に期すべき事由により評価の業務が実施できなかった場合、建設住宅評価において契約の取り下げ及び解除があつた場合には、この限りではない。（別表第9）

(負担金の納付)

第30条 当機関は、法第87条第3項の規定により住宅紛争処理支援センターからなされた通知に従い、負担金を同センターに対して納付する。

第6章 雑 則

(登録の区分等の掲示)

第31条 当機関は、法第17条の規定に従い、登録の区分その他の施行規則第17条第1項各号に掲げる事項を、事務所において公衆に見やすいように掲示する。

(評価業務規程等の公開)

第32条 当機関は、本規程を評価の業務を行う事務所で業務時間内に公衆の閲覧に供するとともに、インターネット上に開設したホームページにおいて公表する。

【<https://www.osaka-jutaku.or.jp>】

(財務諸表の備付け)

第33条 当機関は、毎事業年度経過後三月以内に、その事業年度の財産目録、貸借対照表及び収支計算書並びに事業報告書を作成し、5年間事務所に備えて置くものとする。

(財務諸表等に係る閲覧等の請求)

第34条 利害関係人は、当機関の業務時間内は、いつでも、次に掲げる請求をすることができる。ただし、(2)又は(4)の請求をする場合には、別表第8に定める金額を支払わなければならないものとする。

- (1) 財務諸表等が書面をもって作成されているときは、当該書面の閲覧又は謄写の請求
- (2) 前号の書面の謄本又は抄本の請求
- (3) 財務諸表が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法により表示したものの閲覧又は謄写の請求
- (4) 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であって次に掲げるもののうち、登録住宅性能評価機関が定めるものにより提供することの請求又は当該事項を記載した書面の交付の請求
 - (a) 登録住宅性能評価機関の使用に係る電子計算機と法18条第2項第4号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であって、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの。
 - (b) 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを請求者に交付する方法
 - (c) (a)及び(b)に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものとする。

(帳簿及び書類の保存)

第35条 帳簿及び書類の保存期間は、次に掲げる文書の種類に応じ、それぞれに掲げるものとする。

- (1) 法第19条第1項の帳簿 評価の業務の全部を廃止するまで
- (2) 設計住宅性能評価申請書及びその添付図書、設計住宅性能評価に係る契約書その他設計住宅性能評価に要した書類（次号に掲げる書類と同一のものを除く。）
10年間
- (3) 建設住宅性能評価申請書及びその添付図書、工事監理報告書、建設住宅性能評価に係る契約書その他建設住宅性能評価に要した書類 20年間

(帳簿及び書類の保存方法及び管理の方法)

第36条 前条各号に掲げる文書の保存は、審査中にあつては審査のため特に必要がある場合を除き事務所内において、審査終了後は施錠できる室、ロッカー等において、確実であり、かつ、秘密の漏れることのない方法で行う。

- 2 前項の保存は、当該文書を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、当該記録を必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示することができるようにして、これを行うことができる。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第37条 当機関は、電子情報処理組織による申請の受付け及び図書の交付を行う場合においては、情報の保護に係る措置について別に定めることとする。

(評価の業務に関する公正の確保)

第38条 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）が、住宅性能評価の申請を自ら行った場合は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

- 2 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）が、住宅性能評価の申請に係る住宅について次のいずれかに該当する業務を行った場合は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

- (1) 設計に関する業務
- (2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務
- (3) 建設工事に関する業務
- (4) 工事監理に関する業務

- 3 当機関の長、役員又はその職員（評価員を含む。）が、その役員又は職員（過去2年間に役員又は職員であった者を含む。）である者が次のいずれかに該当する業務を行った場合（当該役員又はその職員（評価員を含む。）が当該申請に係る住宅性能評価の業務を行う場合に限る。）は当該住宅に係る住宅性能評価を行わないものとする。

- (1) 住宅性能評価の申請を自ら行った場合又は代理人として住宅性能評価の申請を行った場合
- (2) 住宅性能評価の申請に係る住宅について前項（1）、（2）、（3）又は（4）に掲げる業務を行った場合

- 4 評価員又は機関の役員若しくは職員以外の者は、評価の業務に従事してはならない。

(損害保険への加入)

第39条 当機関は、評価の業務に関し支払うことのある損害賠償のための保険契約（保険金額は1事故あたり10,000万円を限度としたもの及び地震その他の自然変象によって明らかとなった瑕疵についての保証が免責事項となっていないもの）を締結するものとする。

(事前相談)

第40条 申請者は、住宅性能評価の申請に先立ち、当機関に相談をすることができる。この場合においては、当機関は、誠実かつ公正に対応するものとする。

附 則

この規程は、平成18年3月1日から施行する。

附 則 (イ)

この規程は、平成18年11月1日から施行する。

附 則 (ロ)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (ハ)

この規程は、平成21年7月1日から施行する。

附 則 (ニ)

この規程は、平成21年12月7日から施行する。

附則 (ホ)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (ヘ)

この規程は、平成22年9月1日から施行する。

附 則 (ト)

この規程は、平成23年12月1日から施行する。

附 則 (チ)

この規程は、平成27年4月6日から施行する。

附 則 (リ)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則 (ヌ)

この規定は平成27年10月3日から施行する。

附 則 (ル)

この規定は平成28年6月3日から施行する。

附 則 (ヲ)

この規定は平成29年10月23日から施行する。

附 則 (ヅ)

この規定は平成30年4月1日から施行する。

附 則 (カ)

この規定は平成30年9月1日から施行する。

附 則 (ヨ)

この規定は平成31年4月1日から施行する。

附 則 (タ)

この規定は令和2年10月3日から施行する。

附 則 (レ)

この規定は令和3年4月1日から施行する。

別表 (第12条第2項、第19条第2項関係)

交付番号は、16桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

○○○-○○-○○○○-○-○-○○○○○

1～3桁目	当機関の指定番号(041)
4～5桁目	当機関の事務所に付する番号(本部「00」分室「01」)
6～9桁目	西暦(年度)
10桁目	1:設計住宅性能評価 2:建設住宅性能評価(新築住宅) 3:建設住宅性能評価(既存住宅)
11桁目	1:一戸建ての住宅 2:共同住宅等
12～16桁目	通し番号(11桁目までの数字の並びの別に応じ、00001から順に付するものとする。)

別表第1

設計住宅性能評価料金

消費税込み

(い) 床面積の合計	(ろ) 基本料金 (円) ※1	(は) 選択料金 (円) ※2
200 m ² 以内	46,750	1,650
200 m ² を超え、500 m ² 以内	73,700	2,750
500 m ² を超え、1,000 m ² 以内	104,500	3,850
1,000 m ² を超え、2,000 m ² 以内	192,500	6,600
2,000 m ² を超え、3,000 m ² 以内	348,700	13,200
3,000 m ² を超え、4,000 m ² 以内	476,300	16,500
4,000 m ² を超え、5,000 m ² 以内	632,500	22,000
5,000 m ² を超え、10,000 m ² 以内	753,500	27,500
10,000 m ² を超える	848,100	29,700

(※1)

- ・ 必須4項目のみを評価する場合の料金で、共同住宅及び長屋住宅等については、基本料金に評価を行う戸数1戸当たり4,400円を加算する。
- ・ 温熱環境で「一次エネルギー消費量」を評価対象とする場合は、基本料金に評価を行う戸数1戸当たり2,200円を加算する。

(※2)

- ・ 選択分野（音環境を除く）を評価する場合の1分野当たりの料金で、評価を行う分野ごとに当該料金を基本料金に加算する。
- ・ 共同住宅及び長屋住宅等について、音環境を選択する場合は、基本料金に評価を行う戸数1戸当たり2,200円（重量床衝撃音対策等級1,100円、軽量床衝撃音対策1,100円）を加算する。

建設住宅評価料金

消費税込み

(い) 種別	(ろ) 床面積の合計	(は) 評価料金 (円)		(に) ※3 検査 1 回 当たりの 評価料金 の減額 (円)	(ほ) 追加検査 1 回当た りの評価 料金 (円)
		基本料金 ※1	選択料金 ※2		
戸建住宅	200 m ² 以内	93,500 円 + A	2,200	3,300	13,200
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	128,700 円 + A	2,750	4,400	17,600
	500 m ² を超える	210,100 円 + A	4,400	4,400	26,400
共同住宅	200 m ² 以内	$N \times 22,000 + M \times \alpha + M \times A$	550	4,400	17,600
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	$N \times 29,700 + M \times \alpha + M \times A$	550	4,400	17,600
	500 m ² を超え、1,000 m ² 以内	$N \times 49,500 + M \times \alpha + M \times A$	1,100	4,400	26,400
	1,000 m ² を超え、2,000 m ² 以内	$N \times 73,700 + M \times \alpha + M \times A$	1,650	4,400	35,200
	2,000 m ² を超え、3,000 m ² 以内	$N \times 100,100 + M \times \alpha + M \times A$	2,200	4,400	44,000
	3,000 m ² を超え、4,000 m ² 以内	$N \times 136,400 + M \times \alpha + M \times A$	3,300	5,500	64,900
	4,000 m ² を超え、5,000 m ² 以内	$N \times 168,300 + M \times \alpha + M \times A$	3,850	5,500	77,000
	5,000 m ² を超え、10,000 m ² 以内	$N \times 198,000 + M \times \alpha + M \times A$	4,400	5,500	86,900
長屋住宅	10,000 m ² を超える	$N \times 287,100 + M \times \alpha + M \times A$	6,600	5,500	130,900
	200 m ² 以内	$N \times 27,500 + M \times \alpha + M \times A$	1,100	4,400	17,600
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	$N \times 42,900 + M \times \alpha + M \times A$	1,100	4,400	17,600
	500 m ² を超え、1,000 m ² 以内	$N \times 72,600 + M \times \alpha + M \times A$	1,650	4,400	26,400
	1,000 を超える	$N \times 106,700 + M \times \alpha + M \times A$	2,200	4,400	35,200

(※1)

- ・ 必須4項目のみを評価する場合の料金で、「N」は検査を行う回数、「M」は評価を行う戸数とする。一次エネルギー消費量等級を選択する場合は基本料金に戸当たり1,100円を加算する。
- ・ 「α」は、音環境を選択する場合は4,400円、音環境を選択しない場合は3,300円とする。
- ・ 「A」は、紛争処理負担金（建設住宅性能評価申請1戸につき4,400円）とする。

(※2)

- ・ 選択分野（音環境を除く）を評価する場合の1分野当たりの料金で、評価を行う分野ごとに、戸建住宅においては1戸当たり、共同住宅及び長屋住宅においては検査1回当たり当該料金を加算する。

(※3)・規程第28条(3)に規定する減額額

変更建設住宅性能評価料金

消費税込み

(い) 種別	(ろ) 床面積の合計	(は) 評価料金 (円)	(に) に追加検査一回 当たりの評価料 (円)
戸建住宅	100 m ² 以内	17,600	8,800
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	25,300	12,100
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	34,100	16,500
	500 m ² を超える	55,000	25,300
共同住宅	100 m ² 以内	16,500+S×11,000	8,800
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	24,200+S×11,000	12,100
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	31,900+S×11,000	16,500
	500 m ² を超え、1,000 m ² 以内	53,900+S×11,000	25,300
	1,000 m ² を超え、2,000 m ² 以内	79,200+S×11,000	33,000
	2,000 m ² を超え、3,000 m ² 以内		
	3,000 m ² を超え、4,000 m ² 以内		
	4,000 m ² を超え、5,000 m ² 以内		
	5,000 m ² を超え、10,000 m ² 以内		
	10,000 m ² を超える		
長屋住宅等	100 m ² 以内	24,750+S×11,000	8,800
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	36,300+S×11,000	12,100
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	47,850+S×11,000	16,500
	500 m ² を超え、1,000 m ² 以内	80,850+S×11,000	25,300
	1,000 m ² を超える	118,800+S×11,000	33,000

※・Sは変更評価を行う戸数

・変更の内容が、空気中の化学物質の濃度等の評価を追加のみの場合は、0円とする。

当機関以外の者が設計住宅性能評価を行った
住宅の建設住宅性能評価の評価料金加算額

消費税込み

	(い) 床面積の合計	(ろ) 評価料金 (円)
戸建住宅	100 m ² 以内	10,450
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	13,200
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	20,900
	500 m ² を超える	P (※1) × 10,450 + 20,900
共同住宅	設計評価料金 (※2) の 50%	
長屋住宅等	設計評価料金 (※2) の 50%	

※1・P は床面積から 500 m²減じた数値を 200 m²で除した数値とする。

※2・当該住宅を当機関の規定により算出した場合の設計評価料金

室内空気中の化学物質の濃度等の評価料金

消費税込み

(い) 測定方法	(ろ) 測定を行う化学物質	(は) 評価を受ける戸数	(に) 評価料金 (円)
評価方法基準 第5の6-3 の測定方法	ホルムアルデヒド	1戸	62,700
		2戸から10戸まで	$62,700 \times M \times 0.9$
		11戸から50戸まで	$62,700 \times M \times 0.8$
		51戸以上	$62,700 \times M \times 0.7$
	ホルムアルデヒド、トル エン、キシレン、エチル ベンゼン及びスチレン	1戸	106,700
		2戸から10戸まで	$106,700 \times M \times 0.9$
		11戸から50戸まで	$106,700 \times M \times 0.8$
		51戸以上	$106,700 \times M \times 0.7$

※・Mは評価を受ける戸数とする。

住宅型式性能認定住宅評価料金

規程第28条の(1)に定める住宅型式認定を受けた型式に適合する部分を含む住宅の場合に同規程第27条に定める評価料金若しくは加算額からの減ずる額は、次表各項の(い)欄に掲げる区分に応じ、設計住宅性能評価料金については、同表各項の(ろ)欄に掲げる率を乗じて得た額を減じた額、建設住宅性能評価料金については、同表各項の(は)欄に掲げる率を乗じて得た額を減じた額とする。(イ)

	(い) 床面積の合計	(ろ) 設計住宅性能 評価料金に乘じる率	(は) 建設住宅性能 評価料金に乘じる率
戸建住宅	100 m ² 以内	0.2	0.1
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	0.2	0.1
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	0.2	0.1
	500 m ² を超える	0.2	0.1
共同住宅	100 m ² 以内	0.2	0.1
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	0.2	0.1
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	0.2	0.1
	500 m ² を超え、1000 m ² 以内	0.2	0.1
	1000 m ² を超え、2000 m ² 以内	0.2	0.1
	2000 m ² を超え、3000 m ² 以内	0.2	0.1
	4000 m ² を超え、5000 m ² 以内	0.2	0.1
	5000 m ² を超え、10000 m ² 以内	0.2	0.1
10000 m ² を超える	0.2	0.1	

型式住宅部分等製造者認証評価料金

規程第 28 条の (2) に定める型式住宅部分等製造者認証を受けた者が住宅の申請を行う場合に同規程第 27 条に定める評価料金若しくは加算額からの減ずる額は、次表各項の (い) 欄に掲げる区分に応じ、設計住宅性能評価料金については、同表各項の (ろ) 欄に掲げる率を乗じて得た額を減じた額、建設住宅性能評価料金については、同表各項の (は) 欄に掲げる率を乗じて得た額を減じた額とする。(ロ)

	(い) 床面積の合計	(ろ) 設計住宅性能 評価料金に乘じる率	(は) 建設住宅性能 評価料金に乘じる率
戸建住宅	100 m ² 以内	0.2	0.2
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	0.2	0.2
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	0.2	0.2
	500 m ² を超える	0.2	0.2
共同住宅	100 m ² 以内	0.2	0.2
	100 m ² を超え、200 m ² 以内	0.2	0.2
	200 m ² を超え、500 m ² 以内	0.2	0.2
	500 m ² を超え、1000 m ² 以内	0.2	0.2
	1000 m ² を超え、2000 m ² 以内	0.2	0.2
	2000 m ² を超え、3000 m ² 以内	0.2	0.2
	4000 m ² を超え、5000 m ² 以内	0.2	0.2
	5000 m ² を超え、10000 m ² 以内	0.2	0.2
	10000 m ² を超える	0.2	0.2

**一定期間内に当機関が別に定める戸数以上の戸建住宅の
設計評価申請実績がある場合の評価料金**

規程第28条の(4)に定める、一定戸数以上の戸建住宅の申請実績がある場合の設計住宅性能評価料金は、同規程第27条に定める評価料金から、下表(い)欄の申請戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。また、一定期間とは、1年程度とする。ただし、表示内容や評価条件の同一性などを鑑み、(ろ)欄の率に減額率を特別加算できるものとする。なお、本減額規定を適用できる者は、申請者、代理者とし、適用にあたっては、戸数、団地、期間等を事前に当機関と協議を行うこと。

(い) 申請戸数	(ろ) 減額率
	設計住宅性能評価料金に乘じる率
9戸以下	0%
10戸以上 29戸以下	10%
30戸以上 49戸以下	15%
50戸以上	30%

一定期間内に当機関が別に定める戸数以上の戸建住宅の
建設評価申請を行う場合の評価料金

規程第28条の(4)に定める、一定戸数以上の戸建住宅の申請を行う場合の建設住宅性能評価の評価料金は同規程第27条に定める評価料金(紛争処理負担金を除く)から、下表(い)欄の戸建住宅の申請戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。また、一定期間とは、1年程度とする。ただし、表示内容や評価条件の同一性、現場検査の移動時間などを鑑み、(ろ)欄の率に減額率を特別加算できるものとする。また、同物件の設計住宅性能評価も一定期間内に申請し、原則として、事前に申請者が当機関に申出たものとする。

(い) 申請戸数	(ろ) 減額率
	建設住宅性能評価料金に乘じる率
9戸以下	0%
10戸以上 29戸以下	5%
30戸以上 49戸以下	10%
50戸以上	15%

**一定期間内に数団地まとめて申請する物件で、当機関が別に定める戸数以上の
共同住宅の設計住宅性能評価申請を行う場合の評価料金**

規程第28条の(4)に定める、一定期間内に数団地まとめて申請する物件で、一定戸数以上の共同住宅の申請を行う場合の設計住宅性能評価料金は、同規程第27条に定める評価料金に、下記(い)欄の共同住宅の戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。また、一定期間とは、1年程度とする。なお、本減額規程を適用するにあたっては、戸数、延べ面積、住戸プラン、期間などを事前に当機関と協議を行うこと。

一定期間内における共同住宅の申請戸数 (い)	減額率 (ろ)
500 戸以上 749 戸以下	10%
750 戸以上 999 戸以下	20%
1000 戸以上	30%

**当機関が別に定める戸数以上の共同住宅の
設計住宅性能評価申請を行う場合の評価料金**

規程第28条の(4)に定める、当機関が別に定める戸数以上の共同住宅の申請を行う場合の設計住宅性能評価料金は、同規程第27条に定める評価料金から、下表(い)欄の共同住宅の戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。ただし、住棟の構成、住戸プラン等の内容を鑑みて、(ろ)欄の率に減額率を特別加算できるものとする。なお、共同住宅の戸数は、一団の敷地内に複数棟ある場合は同一棟と見なし、その合計戸数とすることができる。ただし、同時申請に限るものとする。

(い) 共同住宅申請戸数	(ろ) 減額率
29 戸以下	0%
30 戸以上 99 戸以下	5%
100 戸以上 199 戸以下	10%
200 戸以上 299 戸以下	15%
300 戸以上	20%

**当機関が別に定める戸数以上の共同住宅の
建設住宅性能評価申請を行う場合の評価料金**

規程第28条の(4)に定める、当機関が別に定める戸数以上の共同住宅の申請を行う場合の建設住宅性能評価料金は、同規程第27条に定める評価料金(紛争処理負担金を除く)に、下表(い)欄の共同住宅の戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。ただし、住棟の構成、住戸プラン等の内容を鑑みて、(ろ)欄の率に減額率を特別加算できるものとする。なお、共同住宅の戸数は、一団の敷地内に複数棟ある場合は同一棟と見なし、その合計戸数とすることができる。ただし、同時申請に限るものとする。

(い) 共同住宅申請戸数	(ろ) 減額率
29 戸以下	0%
30 戸以上 99 戸以下	5%
100 戸以上 199 戸以下	10%
200 戸以上 299 戸以下	15%
300 戸以上	20%

同一住戸プランの多い共同住宅の申請を行う場合の評価料金

規程第28条の(5)に定める、同一住戸プランの多い共同住宅の申請を行う場合の設計住宅性能評価料金は、同規程第27条に定める評価料金に、下記(い)欄の1プラン当たりの平均戸数に応じた(ろ)欄の率を乗じて得た額を減じた額とする。

パターン減額率

(い) 1プラン当たりの平均戸数：X	パターン減額率 (ろ)	備考
10戸 ≤ X < 15戸	20%	1プランあたりの平均戸数 (X)の算定式 ：全戸数/プラン数
15戸 ≤ X < 30戸	40%	
30戸 ≤ X	60%	

別表第8

消費税込み

文書等の種別	交付する謄本、抄本又は複製物	金額
1 文書	複写機により複写したもの（白黒で、日本産業規格A列3番の大きさのまでのものに限る）	1枚につき11円 (多色刷りにあつては、44円)
2 電磁的記録	①印刷物として出力したもの	1枚につき11円
	②フロッピーディスクに複製したもの	1枚につき33円
	③光ディスクに複製したもの	1枚につき66円
	④光磁器ディスクに複製したもの	1枚につき319円
3 上記以外の文書等	文書等の性質に応じ作成した謄本、抄本又は複製物	当該謄本、抄本又は複製物の作成に要する費用に相当する額

別表第9

規程第29条に定める建設住宅性能評価の申請の取り下げ及び解除を行った場合の返還の額は、下表（い）欄の申請の取り下げを行った時期に応じた（ろ）欄の率に当該評価料金を乗じた額とするものとする。（イ）

（い）欄 申請の取り下げを行った時期	（ろ）欄 当該評価料金に乗ずる率
建設住宅性能評価の申請書を乙が受理した日から第1回の現場審査の前日まで	0.8
第1回の現場審査を実施した日から第2回の現場審査の前日まで	0.6
第2回の現場審査を実施した日から第3回の現場審査の前日まで	0.4
第3回の現場審査から第4回の現場審査の前日まで	0.2
第4回の現場審査を実施した日以降	0.0（返還しない）

※・紛争処理負担金は金額返還するものとする。

既存住宅性能評価料金

1. 戸建住宅

(1) 現況検査（必須項目）

単位：円（消費税込み）

延べ面積（㎡）	設計図書等 有	設計図書等 無	再検査
200 以下	77,000	110,000	33,000
200 超	110,000	154,000	33,000

※設計図書等無の場合は、簡易な平面図の作成費用を含む。

(2) 特定現況検査（選択項目）

単位：円（消費税込み）

延べ面積（㎡）	特定現況検査（腐朽等・蟻害）
200 以下	55,000
200 超	55,000

※現況検査と特定現況検査は同時実施とする。

(3) 個別性能評価（選択項目）

単位：円（消費税込み）

		全ての既存住宅		新築時に建設住宅性能評価書が交付された住宅
		設計図書有(注)	設計図書無	
1. 構造の安定に関すること	1-1 耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）	別表第10の2による	別途見積	33,000
	1-2 耐震等級（構造躯体の損傷防止）	別途見積		
	1-4 耐風等級 （構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止）	別途見積		
	1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法	1-1に含む		
	1-7 基礎の構造方法及び形式等	1-1に含む		
	1-3 その他（地震に対する構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止【免震建築物】）	別途見積	別途見積	
2. 火災時の安全に関すること	2-1 感知警報装置設置等級 （自住戸火災時）	11,000	別途見積	5,500
	2-4 脱出対策（火災時）			
	2-5 耐火等級【延焼の恐れのある部分（開口部）】			
	2-6 耐火等級【延焼の恐れのある部分（開口部以外）】			
3. 劣化の軽減に関すること	3-1 劣化対策等級（構造躯体等）	33,000	別途見積	11,000
4. 維持管理・更新への配慮に関すること	4-1 維持管理対策等級（専用配管）	8,800	別途見積	5,500
5. 温熱環境に関すること	5-1 断熱対策等級	33,000	別途見積	5,500
	5-2 一次エネルギー対策等級	35,200	別途見積	5,500
6. 空気環境に関すること	6-2 換気対策（局所換気対策）	8,800	8,800	5,500
	6-3 室内空気中の化学物質の濃度等	別表第4による	別表第4による	別表第4による
	6-4 石綿含有建材の有無等	別途見積	別途見積	別途見積
	6-5 室内空気中の石綿の粉じんの濃度等	別途見積	別途見積	別途見積
7. 光・視環境に関すること	7-1 単純開口率	8,800	33,000	5,500
	7-2 方位別開口比			
9. 高齢者等への配慮に関すること	9-1 高齢者等配慮対策等級（専用部分）	8,800	8,800	5,500
10. 防犯に関すること	10-1 開口部の侵入防止対策	8,800	8,800	5,500

(注)： 評価に必要な設計図書（構造計算書、省エネ計算書等）がない場合は別途とする。

2. 共同住宅

(1) 現況検査（必須項目）

① 共用部分（1棟の料金）

単位：円（消費税込み）

延べ面積 (㎡)	設計図書有	設計図書無	再検査
500 未満	165,000	別途見積	別途見積
1,000 未満	187,000		
2,000 未満	242,000		
3,000 未満	297,000		
4,000 未満	352,000		
5,000 未満	407,000		
10,000 未満	660,000		
10,000 以上	別途見積		

② 専用部分（1戸の料金）

単位：円（消費税込み）

住 戸	設計図書有	設計図書無	再検査
全ての住戸	44,000	57,200	27,500

(2) 特定現況検査（選択項目）

単位：円（消費税込み）

	共用部分	専用部分
特定現況検査 (腐朽等、蟻害)	別途見積	別途見積

(3) 個別性能評価 (選択項目)

単位:円(消費税込み)

			全ての既存住宅		新築時に建設住宅性能評価書が交付された住宅
			設計図書有 (注)	設計図書無	
1. 構造の安定に関すること	1-1 耐震等級 (構造躯体の倒壊等防止)	共用	別表第 10 の 2 による	別途見積	別途見積
	1-2 耐震等級 (構造躯体の損傷防止)	共用	別途見積		
	1-4 耐風等級 (構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	共用	別途見積		
	1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法	共用	1-1 に含む		
	1-7 基礎の構造方法及び形式等	共用	1-1 に含む		
	1-3 その他 (地震に対する構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	共用	別途見積		
2. 火災時の安全に関すること	2-1 感知警報装置設置等級 (自住戸火災時)	専用	11,000/戸	別途見積	5,500/戸
	2-2 感知警報装置設置等級 (自住戸等火災時)	共用			
	2-3 避難安全対策 (他住戸等火災時共用廊下)	共用			
	2-4 脱出対策 (火災時)	専用			
	2-5 耐火等級【延焼の恐れのある部分 (開口部)】	専用			
	2-6 耐火等級【延焼の恐れのある部分 (開口部以外)】	専用			
	2-7 耐火等級【界壁及び界床】	共用			
3. 劣化の軽減に関すること	3-1 劣化対策等級 (構造躯体等)	共用	55,000	別途見積	11,000
4. 維持管理・更新への配慮に関すること	4-1 維持管理対策等級 (専用配管)	専用	15,000/戸	別途見積	5,500/戸
	4-2 維持管理対策等級 (共用配管)	共用			
	4-3 更新対策 (共用配管等)	共用			
	4-4 更新対策 (住戸専用部)	専用			
5. 温熱環境に関すること	5-1 断熱等性能等級	専用	33,000/戸	別途見積	5,500/戸
	5-2 一次エネルギー消費量等級	専用	35,200/戸	別途見積	5,500/戸
6. 空気環境に関すること	6-2 換気対策 (局所換気)	専用	8,800/戸	別途見積	5,500/戸
	6-3 室内空気中の化学物質の濃度等	専用	別表第 4 による	別表第 4 による	別表第 4 による
	6-4 石綿含有建材の有無等	専用	別途見積	別途見積	別途見積
	6-5 室内空気中の石綿の粉じんの濃度等	専用	別途見積	別途見積	別途見積
7. 光・視環境に関すること	7-1 単純開口率	専用	8,800/戸	別途見積	5,500/戸
	7-2 方位別開口比	専用			
9. 高齢者等への配慮に関すること	9-1 高齢者等配慮対策等級 (専用部分)	専用	8,800/戸	別途見積	5,500/戸
	9-2 高齢者等配慮対策等級 (共用部分)	共用	8,800/戸	別途見積	
10. 防犯に関すること	10-1 開口部の侵入防止対策	専用	8,800/戸	別途見積	5,500/戸

(注) : 評価に必要な設計図書 (構造計算書、省エネ計算書 等) がない場合は別途とする。

別表第 10 の 2

1-1 耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）に係る評価料金

単位：円（消費税込み）

	許容応力度計算等	限界耐力計算等
200 m ² 未満	44,000	別途見積
500 m ² 未満	66,000	
1,000 m ² 未満	99,000	
2,000 m ² 未満	143,000	
5,000 m ² 未満	220,000	
10,000 m ² 未満	308,000	
10,000 m ² 以上	別途見積	

別表第 11

変更設計住宅性能評価申請書にかかる評価料金について

変更設計住宅性能評価にかかる評価料金は、別表第 1（ろ）欄の基本料金（共同住宅のあつては戸当たり加算額を加えた料金）に下表の定める評価項目ごとの業務比率のうち、該当する変更評価項目の業務比率を乗じて得た額の合計とする。

基本料金 (必須 4 項目)	必須項目			
	構造	劣化	維持管理	温熱環境
業務比率	0.35	0.20	0.15	0.30

※選択項目にかかる変更は別途計算とする。

別記様式 1

住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第 6 条第 1 項の規定による
検査対象工程に係る工事が完了する日又は完了した日の通知

年 月 日

一般財団法人 大阪住宅センター 殿

申請者の氏名又は名称

住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則第 6 条第 1 項の規定に基づき、
検査対象工程に係る工事が完了する日（完了した日）を通知します。

記

1. 申請者の氏名又は名称
2. 設計住宅性能評価書交付番号 第 号
3. 設計住宅性能評価書交付年月日 年 月 日
4. 設計住宅性能評価書交付者
5. 検査対象工程に係る工事
6. 検査対象工程に係る工事の完了（予定）年月日 年 月 日
7. 建築場所

（注意） 数字は算用数字を用いてください。

備考

1. この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 としてください。
2. 申請者が法人である場合にあっては、その代表者の氏名も記入してください。
3. 一の申請者が、共同住宅等の複数の住戸に係る通知を行う場合、この通知書一部をもって通知を行うことができます。

別記様式3

(第25条第2項関係)

身分証の様式

一般財団法人大阪住宅センター評価業務規程第5条第2項の規定による身分証の仕様及び書式は以下のものとする。

1 評価員用

書式(表面)

評価員証		写 真 (25 × 30)
氏 名		
生年月日		
交付日		
番号 特 記		
<p>上記の者は、住宅の品質確保の促進等に関する法律第13条の規定に基づく評価員であることを証明する。</p> <p style="text-align: right;">一般財団法人大阪住宅センター 理事長 印</p>		

書式(裏面)

注 意
1 この評価業務に当たっては、本証を常に携帯すること。
2 この証は、他人に貸与し、又は譲渡してはならない。
3 この証を紛失したときは、ただちに発行者に届けなければならない
4 評価員の資格を失ったときは、この証をただちに発行者に返還しなければならない。

大きさ:約85×54(mm)